ニューヨーク補習授業校だより

絆・きずな

平成 30（2018）年
８月２５日発行
第１３号

夢のふくらむ学校

ジョン万次郎について（その２）

ある日、ホイットフィールド船長は、万次郎を連れて自宅近くの自分の宗派の教会の日曜礼拝に出かけました。しかし、万次郎が有色人種であるとの理由で、教会に入ることが許されませんでした。ホイットフィールド船長は憤慨し、人種で差別をしない別の宗派の教会に通うようになりました。また、現地の小学校（といっても異年齢の子どもたちが一緒に学ぶ私塾のようなもの）や航海術・高等数学を学ぶ専門学校でも、はじめは嫌がらせなどがあったようですが、万次郎のまじめな学習態度（学費を出してもらっていることへの感謝の念）と能力の高さで周囲から認められるようになり、仲のよい友達もできたということです。万次郎のもつ生きる力の面目躍如というところでしょうか。





（左）万次郎のベッド　（右）万次郎の部屋～窓の外に広がる海を見て何を思ったのでしょうか。



航海士になるために通った専門学校

ふるさとの土佐とは全く異なる環境に戸惑いもあったかもしれませんが、何よりも貪欲に新しい知識や習慣、そして言葉を「学びたい！」そして、いずれは「日本に帰りたい！」という強いモチベーションがあったからこそ前を向いて生き抜くことができたのかもしれません。万次郎の部屋の窓から見える海が、遙か遠くの土佐の海につながっていることを日々思いながら、勉学にいそしんだのでしょう。

マサチューセッツ州フェアヘブンにあるジョン万次郎記念館は、ホイットフィールド船長の家をそのまま保存したものです。暖炉や床材、万次郎のベッドなど大変よく保存されていますが、一時は競売にかけられそうになったそうです。そのことを聞きつけた聖路加大学病院院長の故日野原重明氏が、募金を呼びかけて資金を集めて買い取り、今のように整備されたのだそうです。

中浜家とホイットフィールド家の子孫間の交流は今でも続いており、さらには、フェアヘブン市と万次郎の出身地高知県中浜町で、交互に交流イベントが行われているとのことです。およそ１７０年前、あの広い太平洋の中で偶然出会った万次郎とホイットフィールド船長の絆が、今も子孫や都市間の交流という形で根付いていることは、彼らにとってこれほどうれしいことはないでしょう。時代と世代を超えて、これからも友好関係を続けていってほしいと思わずにはいられません。

さて、新入園生の皆さんも、現地校では、最初は言葉や学校文化の違いに苦労するかもしれません。補習校のみんなも同じ経験をしています。万次郎がそうであったように、皆さんも一人ではありません。お父さんお母さん、兄弟姉妹、そして友達と一緒にがんばっていきましょう。そして、現地校と補習校の両立を目指しましょう。私たち補習校の教職員も全力で皆さんを応援します。

NEWS！！

宇宙飛行士　野口聡一さん講演会のお知らせ



下記の要領で、ＬＩ校・W校中高等部対象の講演会を開催いたします。
広く保護者の皆様にもご来場いただきたく、ご案内申し上げます。聴講は無料です。

記

１　日　時　平成３０年９月８日（土）１０：３０～１２：００
２　場　所　W校オーディトリアム（６００人収容）
３　その他　ＬＩ校生徒・希望する保護者はスクールバスで往復します。（保護者の方は自家用車も可～芝生の第２駐車場）